

札幌市の防災啓発パンフレット・防災啓発動画

札幌市危機管理局では、市民の防災意識向上のためハザードマップや各種パンフレットによる普及啓発を行っています。

中でも「さっぽろ防災ハンドブック」は、毎年の配布数が最も多いパンフレットで、家庭での備えや地震・風水害の知識など、災害時に自らの命を守る「自助」、周りの人と協力して助け合う「共助」に役立つ内容を記載しています。また、近年の災害傾向や、寒冷地ならではの防災のポイントを示しているほか、ご自身の「防災スキル」をチェックできる「防災スキルチェックシート」も掲載しています。

令和6年3月には、札幌市防災動画「気づきから行動へ」を作成し、札幌市公式YouTubeチャンネルで公開しました。地震、風水害、家庭内備蓄、マンション防災、地域での共助など、テーマごとの動画も用意しており、スマートフォンでも気軽に見ることができます。多くの市民にご覧いただき、日頃からの備えに役立てていただきたいと思います。



動画はこちらから



編 集 後 記

新年早々1月1日、9月と二度にわたり能登半島地震土砂災害の犠牲になりました方々には心よりお見舞申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。

今年は例年ない台風、災害など多く発生し、役員の皆様も町内会地域対応等大変だったことと思います。

いよいよ冬のシーズンを迎える事になりますが健康には十分気をつけて日々お過ごし下さい。

副会長 広報部長 渡辺 恵美子 FAX・TEL 011-851-9583番

札幌

市民防災

第31号

令和6年11月20日
札幌市民防災団体連合会

発行責任者 田畠 隆二

令和6年度

札幌市総合防災訓練（豊平区9月11日(水)

大和ハウスプレミストドーム（前札幌ドーム）

にて開催）

札幌市総合防災訓練は災害に強い安全・安心なまちづくりをめざして毎年各区持ち廻りで実施されており、今年豊平区が担当、10年ぶりで1,200人の参加者と共に開催されました。

当日は大規模な災害、地震が発生を想定し、市、区消防、警察、自衛隊各関係機関が参加し盛大に行われました。

今回大和ハウスプレミストドームは災害時の支援物資の集資拠点と成っておりなかなか体験出来ない消防ヘリコプター、避難、多重衝突事故に対応、ペット同伴、外国人の受け入れなど多彩な対応について学びまた、当日の体験ではなく、日頃から自分の命は自力で地域は自分達で守る意識を持ちながら生活をすることの重要性を心得ておく事が大切です。又非常食も配布、普段食べる事のないご飯等もくばられました。多くの方が参加し子どもたちもよい体験が出来ました。

災害対応向上の向上に向けて

札幌市長 秋元克広

札幌市民防災団体連合会の皆様におかれましては、日ごろから札幌市の防災行政に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年は、各地で大雨による災害が多発しており、今年7月には秋田県と山形県で、9月には元日の震災から復旧の途上にある能登半島で、大雨による被害に見舞われました。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

札幌市では、大規模な地震及び風水害の発生を想定した総合防災訓練を毎年実施しており、今年度は9月11日に大和ハウスプレミストドームで実施しました。9月11日という日は、10年前の平成26年に北海道で初めて大雨特別警報が発表された日です。札幌市では56水害以来、33年ぶりに災害対策本部を設置し災害対応にあたりましたが、様々な課題が浮き彫りになりました。

その後、この時の検証結果を基に、札幌市全体としての災害対応力の向上に取り組んでまいりました。今後も訓練の積み重ね等により更なる災害対応力の向上に努めてまいります。また、災害による被害を軽減するためには、皆様が日頃取り組んでおられる「共助」の取組が重要となりますので、引き続き地域に根差した自主防災活動を推し進めていただきますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、札幌市民防災団体連合会の、今後、益々の御発展と会員皆様の御健勝、御活躍を心から御祈念申し上げますとともに、札幌市の防災行政に特段の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。





災害に対する情報の収集と防災訓練の大切さ

札幌市民防災団体連合会 会長 田畠 隆二

当会会員の皆様におかれましては、日頃から地域自主防災活動や防犯活動等「安全・安心のまちづくり」に努力されていると思います。

今年は1月の能登半島での大きな地震災害が発生から始まり、夏には全国各地で大雨や台風等の災害により、大きな被害が発生しました。

8月には台風10号により九州各地に被害をもたらし、9月以降の大雨により山形県、新潟県、石川県で被害が発生し豪雨災害の怖さを改めて感じました。

又、世界各国でも多くの豪雨災害が発生し、地球温暖化の影響かと思われます。

私達の今後の地域防災活動も、地震災害だけではなく豪雨災害に対応する防災活動が必要となつてきました。災害に対応する情報の収集や、地域避難場所の速やかな開設等日頃の訓練が大切だと思います。当会も札幌市危機管理局と連携し、防災情報の提供やセミナーの参加等、皆様の自主防災活動の一助と成ります様活動して参ります。

令和6年度札幌市総合防災訓練

札幌市豊平区市民部総務企画課地域安全担当係長 大平拓司

令和6年9月11日（水曜日）13時30分から、大和ハウスプレミストドーム（羊ヶ丘1番地）で、「令和6年度札幌市総合防災訓練」が行われた。



ヘリコプターでの医師搬送訓練

これは、大規模な災害の発生を想定し、地域住民や民間企業、防災関係機関などの連携強化や防災意識の高揚を目的として実施しているもの。今回の訓練では震度7の札幌市直下型地震が発生したと想定して行われ、57団体と地域住民など総勢約1200人が参加した。

この日は地下鉄福住駅での被災を想定した避難訓練や、倒壊家屋や多重衝突事故車両からの救助訓練などを行ったほか、避難所開設・運用訓練では外国人、ペット同伴及び要配慮者の受け入れや、簡易トイレや段ボールベッドの設置などの訓練を行った。また、大和ハウスプレミストドームは災害時に支援物資の集積拠点としての役割を担っていることから、トラックから支援物資を降ろすなど、実際の災害時の対応を想定した動きを確認した。

その他、消防ヘリコプターや災害時に活躍する車両、防災関係団体による展示、大雨や激しい地震の揺れを体験できるブースなどが設けられ、参加者は災害時の緊迫感を実感していた。

訓練後の市長講話では、秋元克広（あきもと・かつひろ）札幌市長が「いつ、どこで起るかわからないからこそ、日頃からの災害への備えを心掛ける必要があります。地域の皆さんや関係団体で連携して行った本日の訓練の成果を幅広く共有し、地域の防災力を高めていきましょう」と参加者たちへ語った。



避難所での簡易トイレの設置

令和6年度札幌市総合防災訓練

札幌市消防局豊平消防署警防課消防一係 佐藤弘隆

「令和6年度札幌市総合防災訓練」が9月11日（水）に「大和ハウス プレミストドーム」にて行われました。

札幌市では、「自助」・「共助」・「公助」の一層の充実を図り「災害に強い安全安心なまちづくり」を推進するために、実災害を想定した総合的かつ実践的な災害対応訓練を行うとともに、地域住民や地元企業、防災関係機関などの連携強化や意識啓発等を目的に、毎年、大規模な総合防災訓練を行っております。



多重衝突事故救出訓練

消防が担当した実災害を想定した災害対応訓練については、札幌中心部を震源とした札幌市直下型地震が発生したとの想定で、ヘリコプターやドローンによる情報収集伝達訓練、はしご車による観客席からの救出訓練、多数傷病者を重症度等に応じて優先順位をつけて分類するトリアージ訓練などを消防、警察、自衛隊、医療機関等が連携して実施しました。

訓練後の札幌市長講評では、「大規模災害の発生直後は、公的機関の「公助」だけではなく、自分の身は自分で守る「自助」と、地域の住民などで協力して助け合う「共助」の連携が重要であり、日頃から地域の防災力を高めることが何より必要となります。地域住民に加えて、地元企業や様々な団体におかれましても、お力添えをいただければ、大変、心強く思います。」と参加者たちへ語りかけていました。

令和6年度札幌市総合防災訓練に参加して

公益財団法人札幌国際プラザ 大高紡希

札幌国際プラザが、札幌市総合防災訓練に初めて外国人住民とともに参加したのは、平成19年のことでした。当時の札幌市の外国人人口は約9,000人でしたが、それから17年後の令和6年9月現在約19,400人まで増加しています。

それに伴い、札幌市総合防災訓練における外国人の位置づけも徐々に変化してきました。当初は、外国人住民への災害啓発や地域との交流が主な目的でしたが、令和元年度には、前年に起きた北海道胆振東部地震を受け、外国人観光客が避難者となることが想定された訓練が行われ、その中で札幌国際プラザが担う「災害多言語支援センター」の活動が紹介されました。

そしてこの令和6年度には、主に在住外国人で構成されたボランティア「札幌災害外国人支援チームS A F E」が、初めて訓練のシナリオに登場し避難所で受付の通訳支援を行いました。

外国人住民が、ただ支援される存在ではなく、ともに札幌を災害に強いまちにするために協力し合える市民の一員である、ということが徐々に根付いていくのを感じます。



訓練参加の様子